

「住吉の語り部となりたい」 シリーズ第 22 回

料亭つたも主人・深田正雄

2013 年 1 月 24 日

広小路ものがたり・続編

明けましておめでとうございます。

今年は大正 2 年祖父深田良矩が蔦茂旅館を住吉町に創業して、「料亭つたも」はおかげさまで 100 年を迎えます。

皆様の長年にわたるご愛顧とご支援に感謝しつつ、「日本文化のテーマパーク」として伝統の味と和の粋をこれからも承継できれば嬉しく思います。

本年も「住吉の語り部」も戦後・昭和 32-3 年頃の話を中心にユーモアを交えてご紹介させていただきますので、ご支援いただければ嬉しく思います。

先回の栄小学校帰り、伏見より住吉通りまでの思い出から、いよいよ「丸栄」周辺の話となります。

人通りも多くなるため南呉服町前後から広小路南側には飲食屋台が規制されていたようで、小さなカウンターでの物販が多くなります。

「えーい、持ってけ泥棒！」バナナのたたき売り、「一枚が二枚、二枚が四枚・・・ガラの油がたらりたらり・・・」とタイガーバームオイル？の口上が懐かしく思い出されます。紙芝居や雑誌・新聞販売、そして、丸栄西側壁画下に数人の靴磨きコーナーも賑やかでした。

ビックリしたのはビルが動くハプニング！小学校の低学年のころ、道路の拡幅工事とやらで角の明治屋ビルを掘下げて地下に枕木のようなコロを敷き、2-3日かけてゴロゴロ曳家移転を友達と見物、「ビルがいのく（動く）」とんでもないビッグショーに大喜びしました。そして、明治屋ビルには金属製蛇腹ドアを開閉するエレベーターおばさんが笑顔で「コンニチワ」とっても優しい印象があります。

そして、僕らの遊園地、丸栄デパート屋上が最終パラダイス。東郷青児制作のエレベータードアが開くと熱帯魚がいっぱい、エンジェルフィッシュ、グッピー、ネオンテトラ、キッシングフィッシュ・・・水族館を経て、今度はペットショップ、最近見なくなったスピッツ、カナリアと遊び、植木やお花、栄特設の動植物園には興奮しましたね。

遊具はゴーカート、メリーゴーランド・・・楽しく乗っていましたが、なぜか代金を払った記憶がないのです。当時は「通い帳」（代金請求伝票）なるものを持ったお坊ちゃん、特別サービスの古き良き時代であったようです。そして、圧巻は日本で初？といわれたモノレールが搭屋にあり、名古屋市内を一望し御岳山、名古屋港、市内一のビル眺望のなか、

近くのテレビ塔の高さに驚いておりました。

また、これまた名古屋初・丸栄百貨店の4階まで「いのく階段」(エスカレーター)もスリル満点、手すりを上から滑り降りて可愛いエスカレーターガールのオネエチャマに叱られたのも思い出です。丸栄冒険から、ぼつぼつ、お家に帰る時間となってきました。

当時は、アイデアマン社長だったのか、ユニークな営業展開でもあり、外装、内装を人気の東郷青児画伯に依頼、よく丸栄さんのご招待で画伯が葛茂に投宿やお食事されていたようです。母「のり子」も格好のモデルであったようで、今も仏壇の横に母の美人画に毎朝、線香を添えております。



丸栄屋上エレベータードア：東郷青児筆・なぜか現在は使用されていません。



屋上遊園地跡：2012年から広小路屋台をテーマとしたビアガーデン（ゴーカート広場跡）右奥の神社は以前の面影があります。



屋上搭屋：モノレール跡 現在はスカイパーキング、同じ乗り物ですが??下は屋上農園
とのこと